

Hi George: 「天気」編集委員の中村晃三さんから「ラ・ニーニャ」について解説するように頼まれたところですけど、新用語の発案者として、そのいきさつなんかを日本の読者に紹介してくれませんか。「ラ・ニーニャ」は日本ではもう町のおじさんおばさんまで知っているんですから責任がありますよ。

——Toshio Yamagata

Hi Toshio: ちょうど、「エル・ニーニョ、ラ・ニーニャそして南方振動」という私の本のコピーを受けとったところなんです。ひどいミスプリントがありますけど、仕上がりはまあまあといったところでしょうか。60ドルというのは正直なところ高すぎますね。でも、日本では皆さん「ラ・ニーニャ」に興味を持っているようですから、たくさん売れないかな……。

ところで、「ラ・ニーニャ」について一言。

「エル・ニーニョ」は熱帯太平洋の異常な状態と考えられた時期がありましたね。そこで予報とかなんとか、「エル・ニーニョ」にすごく力点がおかれちゃいました。今でもあんまり意味がないと思うのですが、ENSOなんていう用語も使われています。南方振動は文字どおり、暖かい「エル・ニーニョ」の状態とその反対の冷たい状態の間の振動なわけです。これは降水量、海面気圧、風等々の長い時系列をちょっと眺めれば明らかでしょう。フラットな“正常な状態”から、時折、フラットな“異常な状態”になるというのではなくて、経年的な振動がみえるだけです。“正常な状態”がしばらく持続するというようなことはないのです。つねに“正常な状態”より暖かい「エル・ニーニョ」か“正常な状態”より冷たい状態のどちらかです。これに気付いた人もいて、いくつかの冷たい状態をさす名称を提案しました。「反エル・ニーニョ」と呼んだ人がいますが、これは非常にまずかった。なぜって、「エル・ニーニョ」は文字どおり幼少のキリストをさすわけですから、「反エル・ニーニョ」というのは反キリストの響きを持ってしまいます。スクリップス海洋研究所のある生物学者は El Viejo という名を提案しました。スペイン語で老人という意味です。おそらく、老人が子供に続くと思ったから

でしょうね。しかし、今は振動が問題なので、いずれ子供が老人に続いてしまいますね。輪廻を信じるならかまいませんけれど。そんな訳で私は女の子を意味する「ラ・ニーニャ」を提案したんです。スペイン語圏でカトリックの教育を受けた人には「エル・ニーニョ」は宗教的な意味がありますから「ラ・ニーニャ」もあまり愉快的な用語ではないようです。もっといい用語があったら提案して下さいよ。

ちょっと脱線しましたが、科学的には振動かどうかというのは重要です。暖かい状態があれば冷たい状態もある、ということは「エル・ニーニョ」にばかり研究の的を絞るのはおかしいということになりますね。ところが、ごく最近まで、このおかしい状態が続いていたわけです。それに「エル・ニーニョ」だけ予報しようとするのも変ですよ。経年変動の予報は不断の天気予報のようにあるべきなんです。つまり、いつもおこなわれていて、次に起こるどんなことでも（たとえば暖かいとか、寒いとか、雨がたくさん降るとか降らないとか）予報しなくてははいけませんね。もちろん、長い間「エル・ニーニョ」に力点がおかれてきたのにはそれなりの理由があります。これは心理学にも関係するでしょうね。ペルーやエクアドルでは、「エル・ニーニョ」は災害ですから、新聞にもよく報道されます。一方、「ラ・ニーニャ」は温和な気候をもたらすので、誰も苦しみません。でも、ペルーの昔の人は、災害に幼いキリストなんて名付けるのだから、余程つむじまがりだったんだな、等と早合点してはいけません。ペルーの経済が漁業（アンチョビー漁）に強く依存するようになり、沿岸に豪雨に弱い人口稠密地域が広がったのはほんの1960年代からなので、もともとは「エル・ニーニョ」は素敵な出来事だったので。雨が降り、砂漠が沃野と化したのですからね。湧昇がやんで、新しいタイプの魚が沖合いにあらわれたりもしたんです。

ところで、この数世紀の間「エル・ニーニョ」や「ラ・ニーニャ」をどのように人はみてきたのか、その歴史を私の本の序に入れておきました。もっと興味のある方は「El Niño, La Niña and the Southern Oscillation, (P17へつづく)

- Climatic Variations on Agriculture, Vol. 2, Assessments in semi-arid regions. Kluwer Acad. Publ., Dordrecht, 764 p.
- Pitovranov, S.E. *et al.*, 1988: The effects of climatic variations on agriculture in the subarctic zone of the USSR. In: The impact of climatic variations on agriculture, Vol. 1, ed. by M.L. Parry *et al.*, Kluwer Acad. Publ., Dordrecht, 615-722.
- UNEP/GEMS, 1987: The Greenhouse Gases. UNEP/GEMS Environment Library No. 1, 70 p.
- UNEP/WMO, 1988: Assessment of urban air quality. Global Environment Monitoring System, 100 p.
- Western Governor's Policy Office, 1977: Directory of Federal Drought Assistance. Prepared by the Institute for Policy Research for the Western Region Drought Action Task Force, the US Department of Agriculture Washington, DC.
- Williams, G.D.V. *et al.*, 1988: Estimating effects of climatic change on agriculture in Saskatchewan, Canada. In: The impact of climatic variations on agriculture, Vol. 1, ed. by M.L. Parry *et al.*, Kluwer Acad. Publ., Dordrecht, 219-379.
- Yoshino, M. *et al.*, 1988: The effects of climatic variations on agriculture in Japan. In: The impact of climatic variations on agriculture, Vol. 1, ed. by M.L. Parry *et al.*, Kluwer Acad. Publ., Dordrecht, 723-868.
- 吉野正敏, 1983: 気候影響・利用研究会—日本の WCIP・WCAP に関連して—, 農業気象, 39(2), 117-120.
- , 1985: 世界気候影響研究計界 (WCIP) の最近の動向, 気候影響・利用研究会報, 2, 41-46.
- , 1986: 同上, 1985年10月~1986年3月, 気候影響・利用研究会報, 3, 7-10.
- , 1987: 同上, 1986年4月~1987年4月, 気候影響利用研究会報, 4, 1-3.
- , 1988a: 地球の植生変化に関するモデリングの諸問題, 気候影響・利用研究会報, 5, 16-120.
- , 1988b: 来る半世紀の気候変動とわが国の食糧・エネルギー・水の予想に関する研究, 気候学・気象学研究報告, 14, 1-108.
- 編, 1988c: 日本における気候影響・利用研究の課題, 気象研究ノート, 162, 1-231.
- , 1989: 国際気候影響ネットワークシンポジウム—1989年3月14~17日の報告—気候影響・利用研究会報, 6, 1-5.

## [追記]

本文執筆後, 入手した文献を次に紹介しておく。特に, Bolin *et al.* (1986) の本は, 1985年10月に開催されたいわゆるフィラッハ会議に提出された論文の集大成で, その当時での総括であると同時に, 今日の地球環境問題の原点でもあり, 最も重要な文献である。

Bolin, B., Döös, B.R., Jäger, J. and Warrick, R.A., (Ed.) 1986: The Greenhouse Effect, Climatic Change, and Ecosystems. SCOPE (29), 529 p.

Morrisette, P.M., (Ed.) 1987: A selected annotated bibliography of climate and society research. U.S. Dept. of Commerce, NOAA Tech. Rep. NCPO 002, 1-104.

Pearman, G.I., (Ed.) 1989: Greenhouse, Planning for Climate Change. E.J. Brill, Leiden, 750 p.

Rodhe, H. and Herra, R., (Ed.) 1988: Acidification in Tropical Countries. SCOPE (36), 405 p.

UNEP, 1986: Possible effects of man's activities on the ozone layer and climate. UNEP., Nairobi, Policy Support Document.

とても面白い話ですね。まさに新用語の铸造 (coin) は金 (coin) になるということですね。それではまた…

——— Toshio Yamagata  
(九州大学・山形俊男)

(P 4 からつづく)  
Academic Press 1989」を読んで下さい。

——— George Philander